



11
2021

発行所
 大阪市中央区玉造2-24-22
 カトリック大阪大司教区
 広報委員会
 郵便番号 540-0004
 TEL (06) 6941-9700(代表)
 TEL (06) 6946-3223(直通)
 FAX (06) 6946-3224(直通)
 E-mail: jhu@osaka.catholic.jp
編集 広報委員会
発行人 前田万葉

本 紙
「点訳版」「音訳」
あります。〈無料〉
※ご希望の場合は
下記まで申込み——
「点訳版(点字本)」
時報 ☎06-6946-3223(直通)
☎06-6946-3224(直通)
「音訳(テープ・ディジー)」
山口さん ☎0798-34-4228

☆ 中居裕也君のなめらかな心と信仰のEメール
☆ 「聖書週間」と「新共同訳聖書」 (2面)
☆ ラジオ「信仰の時間」Sr.村晴美 (3面)
☆ 司牧者から若者たちにこの一冊 (3面)
☆ ユースト高山右近の生涯と信仰 (97)
☆ カテキズムの学び (5面)
☆ 生きるー難民移住移動者

広報委員会へのEメールアドレス=jiho@osaka.catholic.jp

『時報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

病者・障がい者とともに歩むミサ

エッファタの東京パラのさわやかに

9月23日（木・祝）14時から大阪カテドラル聖マリア大聖堂で昨年同様、非公開でミサが行なわれた。今年は東京パラリンピックでの選手たちの活躍がメディアでも大きく報道された。これを機に身近なところから、病者・障がい者への理解と友情が深まりますように。

ミサは非公開で、YouTubeライブ配信。配信を視聴しない人も、祈りを共有できるようにと「ともに歩む祈り」カードが小教区に送付された。

以下、ミサ中の共同祈願文を3つ、紹介したい。

病者 主よ、切なるお願いです。身体的な事情で思ふような行動が出来ない人

に目を留めてください。主が支えてくださっていることに気づくことができますように。私たちが互いに支え合うことができるように力づけてください。私たち一人ひとりの方法で実践できますように。

視覚障がい者

新型コロナウイルス
イルス感染症の
影響で失業した
人、所得が減少
した人のため
に、また後遺症
に苦悩している
人のために祈り

ます。心の平穩を取り戻し、以前の生活に戻れますように。希望を持って歩んで行きますようお導きください。

肢体障がい者 神よ、私
たちにお恵みを与えてくだ
さい。私たちは、みんな欠
点だらけの存在です。でも、
そんな私たちだから、とく
に障がいを持った者たちを
気にかけてください。

主司式の前田万葉大司教はミサの説教で、「世界病者の日」の教皇メッセージに触れ、病者・障がい者により寄り添い、共に宣教者になつていくよう呼びかけられた。ミサ司式には、退院

教区納骨者および死者
祈念ミサ(限定公開)

11月3日(水・祝)11時

司式:酒井俊弘補佐司教
大阪カテドラル
聖マリア大聖堂
*YouTube配信

直後の酒井俊弘補佐司教も加わった。

70人。コロナ禍を契機に
ITによるコミュニケーションは浸透した一方、その手段を持たず多くの人の意識外に置かれる人との格差は広がった。コロナ後には、誰をも排除しない新しい共同体へ向かうよう祈りたい。

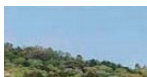
1990年に緩和ケア病
床が公的な医療保険の対象

広がりました。この間、医療の進歩により今まで治療が望めなかったがんも他の慢性疾患のように長く共存できるようになりました。周囲を見渡してもがんサバイバーとして活躍されている方は珍しくありません。当初、ホスピスは終末期の看取りの場としての役割が大きく、もっぱら「ターミナルケア」を行うところとされていました。抗がん剤の副作用、手術・放射線の後遺症、高額な医療費、支える家族の高齢化など長期間に及ぶがん治療の過程ではいろいろな苦痛や悩みに直面します。現在のホスピスに求められているのは従来の人生の最終段階を支援するケアとともに、在宅で療養されているがん闘病者の急な症状変化に迅速に対応することです。症状が緩和されれば退院し、再び自宅で療養していただけます。このようにホスピスは、一度入院したら退院できないところではありません。

上記のような問題に対処するためにさまざまな職種がチームとして関わっています。医師、看護師、薬剤師、栄養士、リハビリセラピスト、チャプレン、ボラ

ンティア、MSW（医療ソーシャルワーカー）などそれぞれの専門分野の能力を発揮して患者さんと家族を支えています。ガラシア病院は多くの患者さんにリハビリが介入し、残された機能を維持し最期までその人らしく生きることが支えられます。

ホスピスが一般病院と大きく違うところは患者さんと家族を一体としてケアの対象とすることです。かけがえのない家族を失った遺族の悲嘆のケアを行うことも大切な働きです。当院ではチャプレンのよじの松本信愛神父様とSr高野美智代様に医療の枠を超えて、悲嘆や深い苦悩の中にいる患者・家族に対しパストラルケアを担っています。



ガラシア病院ホスピスは、箕面の自然豊かな山あいには、個室17床、総室6床、計23床が2病棟、合計46床からなります。チャペル（祈りの間）、デイルーム、キッズコーナー、家族控え室を備え、家庭と同じような温かい雰囲気の中で過ごしていただけます。当院はベッド数が多いため一般に思われているように申し込んでも入りにくくはありません。

せん（希望されれば数日で入院可能）。また一般病院と同じく、保険診療で特別の医療費が発生するわけはありません。

2015年、国連で掲げられたSDGsの基本理念に沿って、今年の世界ホスピス緩和ケア・デーのテーマは「Leave no one behind（誰も置き去りにしない）」です。私たちは苦痛や問題の解決が困難な時も、関わり続ける姿勢をも、大切になりたいと思います。誤った理解のために、緩和ケアの恩恵にあずかれない人がいるとすれば残念なことです。周囲にこのような方があれば、ぜひ声をかけてあげてください。

(文 医療法人ガラシア会
ホスピス長 伊藤則幸)



ガラシア病院北側ホスピス棟全景

恵みと憩いを

箕面市のガラシア病院にホスピスが開設されてから 10 年余り。ホスピスとは何か、そこではどのような取り組みがされているのか。前回に続く解説の後半。

配信された動画



「S・D・G」の基本理
念に沿って、今年の世界
トップスピス緩和ケア・デー
ーマは「リーヴ・アップ・ワンLeave no one

「はい」です。私たちは苦
 悶や問題の解決が困難な時
 も、関わり続ける姿勢を
 大切にしたいと思います。
 いった理解のために、緩和
 アの恩恵にあずかれない
 人がいるとすれば残念なこ
 とです。周囲にこのような
 人があれば、ぜひ声をかけ
 あげてください。

(文) 医療法人ガラシア会
 ホスピス長 伊藤則幸